

躍進！秩父の「カエデ」活用

秋になると、山々を赤や黄色に染め上げ、訪れた人々の心を和ませてくれる「カエデ」。万葉集の時代には、その葉の形がカエルの手に似ていることから「かへるで」と呼ばれたとか。今も昔も、わたしたち日本人の心をひきつける身近な樹です。

秩父は、その独特な気候、地形、地質などの様々な理由で、国内にあるカエデの種類のうち、その多くが自生しているところです。

近年、秩父で産声を上げたカエデ活用の取り組みは、カエデの樹液、すなわちメープルシロップを生産して地域の新たな特産品をつくと同時に、山に木を植え、私たちに恵みを与えてくれる地域の森を守っていこうというものです。森が育んでくれた甘くて香り高いおくりものは、新たな林業の形、そして地域を元気にする活力の源となっています。

カエデを活用した新たな林業の取り組みについて、詳しくはこちら。

秩父地域森林林業活性化協議会ホームページ
「ちちぶ森の活人」内「秩父の「カエデ」活用」

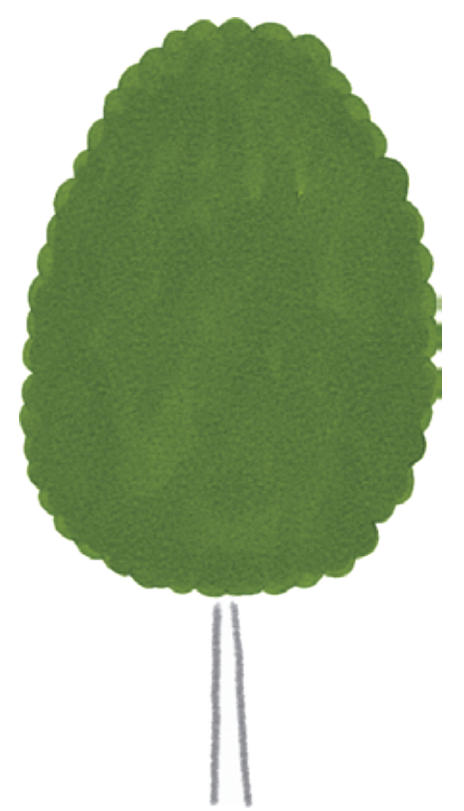
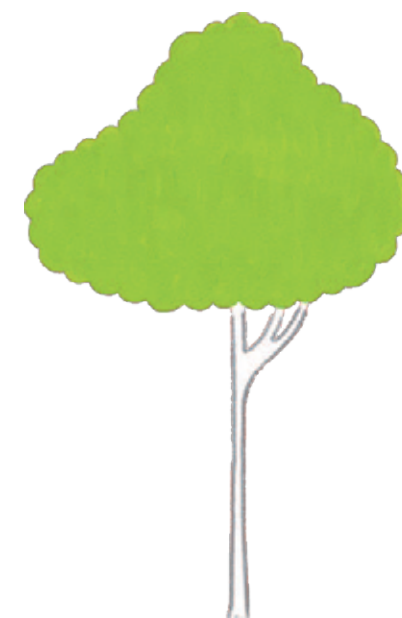
<https://morinokatsujin.com/feature/feature04/>



学術的にも
貴重！



埼玉県天然記念物 「大山沢のシオジ林」



秩父市中津川県有林内にある、埼玉県を代表する自然林の一つです。シオジは、生長すると樹高30m、直径1mになる樹木であり、太平洋側の山地溪流沿いに分布し、秩父は代表的な生育地として知られています。

大山沢のシオジ林には、シオジをはじめ、サウグルミ、カツラなど、溪流沿いに特徴的な樹木が多数生育しており、国内でも屈指のシオジ林として、様々な学術研究も行われています。



関連情報

彩の国ふれあいの森 森林科学館ホームページ内「七つの森のゾーン」

<http://www.chichibu.ne.jp/~furemori/nanatunomori.htm>

